

TEEP

進化型実務家
養成プログラム

VOL.7

NEWS LETTER

いただくことが大事でしょう。

渡邊 データを集めるところは実務的な役割、それを解析することは教員の役割になるでしょう。両方を持っている人は、世の中で大変貴重な人材になります。データはあるけれどどうしたらいいかわからないという人が多いです。データ解析の仕方はとっつきにくいかもしれませんが、ぜひ積極的にこの分野の中に入ってきてもらいたい。お互い歩み寄りながら、実務家教員が生まれていくといいのでしょう。

三澤 私も医療経済マネジメントコースの社会人大学を担当していますが、データはあるけれどどう使ったらいいのかわかり、と必ず言われます。

現場の課題を熟知して、具体的なデータを持っている。これこそDSが活かせるポイントであり、実務家教員の方にぜひ学んでほしいことです。冒頭のDSの3つの柱で、情報系、統計系は教育で補わなければなりませんが、データ対象分野の知識はまさしく実務家教員を目指す人が持っている、本来の強みだと実感しました。

横山 単に統計だけ学ばず、学生の段階ではそ

の活用に至るうれしさが分かりません。実務家教員なら、経験に基づいてDSはこんなふうに使えるんだ、大事なんだということを伝えられます。そのためにもぜひご自身で経験してほしいと思います。課題解決のためのデータ解析とともに、潜在的な課題抽出や分野横断的な共通言語化ともなり、有効な学びとなることでしょう。

今回学部横断的にお二人と話し合い、改めてDSを捉え直す非常に有意義な機会となりました。

小木曾 TEEPでは、Society5.0の実現に向けたソーシャル・デザイン能力の前提として、DSの活用にかかわる基礎的、概観的知識の修得を重視しています。グローバル化した高度情報化社会の中では、さまざまな事象がデータとして観測、蓄積され、データ活用が無縁な領域はありません。基礎科目として設定したのは、専門領域でありながら、総合的に判断する能力を高め「多職種連携PBL」にも通じる学びが深まると考えたからです。

お話のなかで一層その魅力に触れることができ、また、実務家教員を目指す方にとって実務経験で得たデータを有することが実装としての大きな強みである、というエールもいただきました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

用語説明

- **AI** …… 「Artificial Intelligence」の略。高度に知的な作業や判断をコンピュータ中心の人工的なシステムで行う。人工知能。
- **ICT** …… 「Information and Communication Technology」の略。情報通信技術の総称。
- **IoT** …… 「Internet of Things」の略。さまざまなモノがネットワークを通じてサーバーやクラウドサービスに接続され、相互に情報交換をするインターネットの仕組み。
- **ニューラルネットワーク** …… 脳の神経回路ニューロンの一部を模した数理モデル及びその組み合わせ。

TEEP実施委員会では、本年10月頃の開催を目指してシンポジウムの準備を進めています。産業界との有機的な連携関係を模索すべく、企業関係者と共に実務家教員の可能性について基調講演やパネルディスカッション等を行う予定です。詳細や参加申し込み方法などについては、適宜以下のWebサイトで公開してまいりますので、興味・関心のおありの方は是非ご参加ください。

TEEP実施委員会事務局(名古屋市立大学 教務企画室内) <https://teep-consortium.jp/>



AI に代表される近年の急速なICT、IoTの発展、情報ネットワークの普及と拡大、それらとリンクして進むビッグデータの出現を背景に、データ・サイエンス(以下DS)という学問分野への関心が高まっています。こうした背景から、TEEP基本コース科目「持続可能な社会構築論」の中の柱の1つである「情報科学基礎」においてもDSの入門的な内容を紹介する予定です。

本号では、注目を集めるDSやDSを学ぶ意義を、当該コース担当教員ならびに名古屋市立大学においてDSとかかわりの深い教員との鼎談で紹介します。(文・三澤哲也)



鼎談

名古屋市立大学
副学長 大学院芸術工学研究科 教授
横山清子
名古屋市立大学
大学院経済学研究科 教授
三澤哲也
名古屋市立大学
大学院理学研究科 准教授
渡邊裕司

オブザーバー

名古屋市立大学
高等教育院 特任助教
小木曾早苗

コロナ禍でも浮かび上がるDSの重要性

三澤 DSは、データを統計学や数学、機械学習やAIなどの分野から横断的に活用、分析して社会に有益な新たな知見を引き出そうとする学問です。中でも重要な3つの柱は統計系、情報系、データ対象分野の知識で、それらの交差するところにDSがあるというイメージです。

DSという言葉自体は2010年ぐらいから言われ始め、日本でも2013年ごろに統計学ブームが起こり注目を集めました。政府レベルでは2016年の「第5

期科学技術基本計画」をはじめ、矢継ぎ早に打ち出されたデジタル戦略計画でDSやその人材育成が急務であるとされました。

名古屋市でも「ICT活用に関する基本方針2019-2023」が策定され、ビッグデータやAI活用の重要性が謳われています。そうした流れから、本学においてもDS学部の可能性について模索されています。事象としては、まさに世はDSブームと言えますが、その背景には何があるのでしょうか。

横山 Society5.0は、仮想空間であるサイバー空間と現実空間であるフィジカル空間をつなげ、持続

